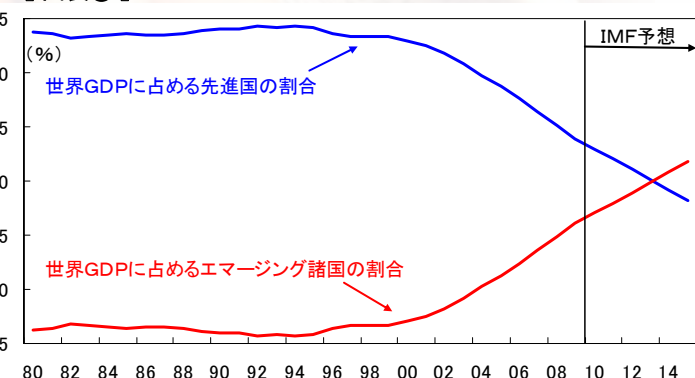


アジア諸国の躍進について

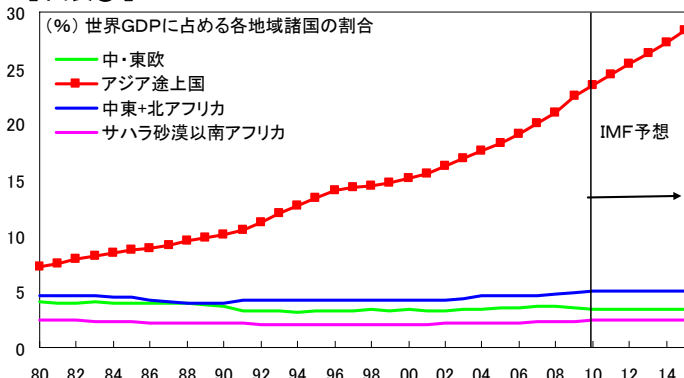
- ✓ 世界におけるアジア諸国のプレゼンス(経済的地位)は上昇し、いずれ先進国を追い越す見通し。
- ✓ 経済基盤の健全化を反映し、アジアの通貨や株式相場は上昇基調にあります。

●世界GDPに占めるエマージング諸国の割合は、2014年に先進国を抜き、5割を越える見通しです(図表①)。また、その中でも、アジアの地位が他のエマージング諸国地域に比べ格段に高くなる模様です(図表②)。

【図表①】

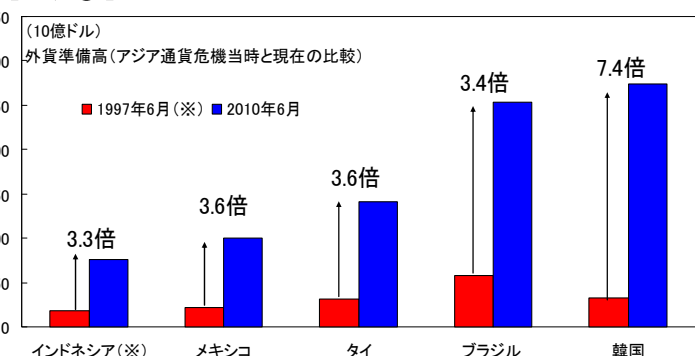


【図表②】

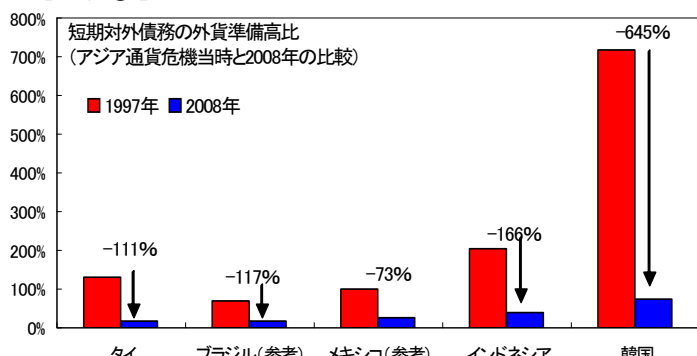


●1997年のアジア通貨危機時に問題となった外貨準備の枯渇を教訓として、アジア通貨危機の震源となった、タイ、インドネシア、韓国は現在に至るまでに急速に外貨準備を積み増しています(図表③)。これに平行し、短期対外債務の外貨準備高比も大幅に縮小し(図表④)、財政・債務状況は健全な状態に変貌しています。

【図表③】



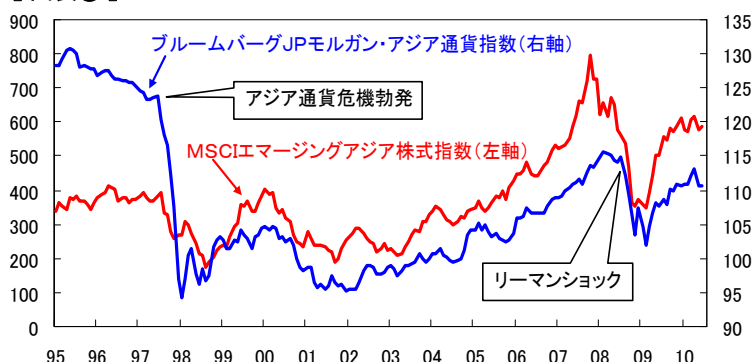
【図表④】



(※)インドネシアは、データが取得可能な1998年4月のデータを使用

●アジア通貨は、リーマンショック以降の世界的な金融危機局面において、下落幅が約11%程度に留まりました。過去の世界的な金融危機局面(アジア通貨危機)においては、発端となったタイバーツ暴落直前の97年6月末を基準にすると、約24%も下落していました。通常、金融危機に際し、経済・財政基盤の弱い通貨が標的にされますが、現在のアジアは、ここ約10年間で経済・財政基盤を健全化しており、耐性が強化された模様です。このことは、株価の上昇にも反映されています(図表⑤)。

【図表⑤】



出所:図表①②はIMF、図表③④⑤はブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
 <審査確認番号H22-TB77>